

インドの農村開発としての「白い革命」プロジェクト
——アーナンド方式の適用とその限界——

中 里 亜 夫 (福岡教育大学教育学部)

新興独立国としてのインドの農業・農村は、国家主導での開発計画つまり1960年代後半からの「緑の革命」と70年代からの「白い革命」との二大農村開発プロジェクトにより、

大きな発展・変化を遂げたと言える。前者に関しては多くの日本人研究者からも注目されたが、後者に関しては注目されることもなく、今日に至っている。日本人の酪農生産への無関心や「酪農は温帯」という既成概念が妨げとなっているのではと考える。

このシンポジウムでは、インド政府が進める酪農開発つまり OF (Operation Flood) プロジェクトの目標、実績の検討を、モデル開発方式としての「アーナンドパターン」の普及過程から行うと同時にこの開発方式の全国的レベルでの適応と限界について明らかにし、この国家主導の開発及び開発方式の意義について共通課題である「途上国開発と地理学」との関連で見解を披露したい。